

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502777		
法人名	医療法人 共栄会		
事業所名	グループホーム まいホーム川下		
所在地	〒003-0869 北海道札幌市白石区574番地61 (電話) 011-874-7601		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年8月30日	評価確定日	平成19年10月11日

【情報提供票より】(平成19年7月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 7月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 21人, 非常勤 4人, 常勤換	23.18人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 RC 造り
	3階建ての 1~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円		
その他の経費(月額)	・食費36,000円 水道光熱費25,000円 暖房費3,000円(11月~3月)		
敷金	(有) (35,000円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	550 円	おやつ 昼食を含む 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(7月18日現在)

利用者人数	25 名	男性 9 名	女性 16 名
要介護1	8名	要介護2	10名
要介護3	5名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 80.2 歳	最低 66 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌恵愛会病院・桜台病院・三上整形外科病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、各ユニット共に個性的で衛生管理が行き届き、五感刺激への配慮と季節感を取り入れ居心地よさと活力が感じられる。ホーム長は、系列病院の看護師として認知症介護に関する研鑽と実績を積み上げホーム開設と共に就任している。また、系列の病院・介護老人保健施設・デイサービスなどと連携し、交流を通してケアサービスと職員の介護意識の向上を努め成果を上げている。ホーム長を中心に、全職員が一体となり利用者一人ひとりの精神的・身体的症状に即し、個別化に視点を当てたチームケアの実践に努め軌道に乗っている。職員は利用者より生活

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念に即したケアサービスの提供、チームケアの基本となる会議の記録、地域の認知症支援センターとしての役割など5項目の改善課題があった。内部的課題を優先し、ホーム長を中心に全職員で質の改善に取り組み、対外的課題は町内会長と連携し改善の兆しが見えている。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長より、リーダー会議で評価のねらいや活用方法について説明がなされ、リーダーを中心に全職員が各項目について話し合いを行ない記録した。評価の一連の取組みを通して職員は日頃の介護を振り返り、意識の高場とケアサービスの質の向上に繋がっている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進委員会の意識や役割の理解に努め、平成19年6月に第1回の会議を開催した。会議ではホームの開設後の歩みと現状・特徴・運営状況などについて説明が行われている。それ以降は、メンバーの都合が合わず2ヶ月に1度の継続的な開催が途絶えていたが、9月に開催が決定している。ケアサービスの質の向上を目指す運営推進会議を正常に機能させる事を期待する。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>契約書に苦情相談機関としてホームと公的機関を掲げ、玄関にはご意見箱を設置している。苦情受付処理簿を作成し、具体的な対処方法を始め再発防止や運営に反映させる体制を明確にしている。又、来訪時には連絡ノートに感想を書いて頂き、合わせて運営に反映している。尚、運営推進会議における外部者へ苦情表現できる場面作りを検討している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム周辺は、民家が少ない立地条件であるが、町内会長の下で地域の祭りに参加し地域との交流の兆しが見えている。事業所と地域の人々が共に支え合う双方向的な関係作りの構築に更なる努力を期待する。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成16年の開設時に掲げた理念「自分らしく暮らせる環境を目指して」を基に3つの方針を具体化し、利用者本位のサービス提供に努めている。		地域密着型サービスの役割と内容を検討し、利用者の地域生活を支える事業の理念を基に、方針・目標を明確にするよう望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時や日々のミーティングで理念についてふれ、話し合いを下に具現化し意思統一を図り実践に向け取り組んでいる。特に、契約社員の更新時は「自己申告書」を基に面接を行ない、理念の意識化を深め実践につなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域住民との交流を模索してきたが、町内会長の下で町内会と神社の祭りに参加し交流の兆しが見られるが、現時点では地域住民との親密な交流が行われている状態ではない。		認知症に対する住民の理解を得られるよう、事業所と地域の人達が共に暮らし支え合う双方向的な関係作りを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長よりリーダー会議で評価のねらいや活用方法について説明がなされ、リーダーを中心に各ユニットで話し合い自己評価を行っている。評価結果は内部課題を優先し質の向上・改善に効果的に活かしている。対外的課題については時間を要しているが穏やかな改善が図られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意義や役割の理解に努め、平成19年6月に第1回の会議を開催している。以降は外部者の事情により途絶えているが、次回は9月の開催が決定している。		外部者の目を通して具体的な改善課題について話し合える事は、地域の理解と協力を得るまたとない機会である。積極的な参加を得て軌道に乗るよう期待したい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区が主催する管理者の連絡会議には出席しているが、事業所の現状に即した質の改善・向上に向けた双方向的な連携には至っていない。		介護保険者で市民福祉の推進者である市町村の担当者とは、ホームの運営の実態を共有し協働関係を持続させることが必要であり、積極的な情報提供を基にした関係作りが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、心身の状態や生活の様子を説明し、月末は「川下たより」や金銭出納の記録を送付している。外来受診の結果はその都度電話連絡を行っている。尚、来訪した感想を連絡ノートに記入していただき、運営に反映している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情相談機関としてホームと公的機関を掲げ、玄関にはご意見箱を設置している。苦情受付処理簿を作成し、対処方法を始め再発防止や運営に反映する体制を明確にしている。又、来訪時には連絡ノートに感想を書いて頂き合わせて運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃より、話し合いを通して介護業務に対するやりがいや働きがいを感じ取れるよう支援している。また、公休・有給も消化を図り、退職を最小限に抑えている。やむなき異動の場合は、家族・利用者に理由を正しく話し、新職員への引継ぎなどダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年1回は外部の研修に参加できるようにしている。研修会参加後は報告書の回覧やプリント類を配布し、意見交換を行っている。系列病院の栄養士や薬剤師を招き勉強会を計画している。又、研修会の案内を配布し自主研修も勧めている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>系列の病院・介護老人保健施設・デイサービスと連携し、職員の意識向上を目的に交流を行っているが、他法人同業者との交流・連携には至っていない。</p>		<p>同業者団体や道・市・区単位の連絡会など、サービスの質の向上を目的に結成している会へ積極的に参加すると共に、他法人の同業者とのネットワーク作りを行い交流や連携を行える取り組みが望まれる。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者の6割は系列病院からの利用であるが、相談から利用に至るまでには、必ず見学してもらい通所を繰り返し行いホームの環境に慣れた上でサービスを利用していただいている。食事代を負担して頂き宿泊体験も取り入れている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者の思いや不安・苦しみ・喜びを知る事に努め、共に過ごし支え合う関係を築いている。又、人生の大先輩として接し、教えてもらう場面を多くもてるよう工夫し声掛けを行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、日々の係わりの中で思いや希望の把握に努め、カンファレンスでその人らしく生活を送れるよう話し合っている。把握が困難な場合は、家族を交えて話し合いを行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス開始前にアセスメントを行い、利用者の心身の課題や利用者・家族の希望を確認しケアプランを作成している。日常的には、担当職員とリーダーが中心にモニタリング・カンファレンスを基に計画を立てている。作成過程でケアマネジャーの指導を受けている。必要に応じて医療関係者の意見を聞いている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間は一応6ヶ月に設定しているが、日々の情報交換により期間に関係なく随時の見直しを行っている。状況変化に対しては、仮プランを考えたり家族と話し合っている。</p>		<p>設定期間に関係なく随時の見直しを行っている実情の即して、期間短縮を図り月1回程度は状況確認を行い、アイデアを集め利用者・家族の意向を取り入れた見直しを行うことも検討してほしい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者・家族の状況に応じた通院や送迎などの移送サービスを始め、地域住民に対して介護に関する保険・福祉・医療に関する相談活動など、柔軟に対応し支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	利用者や家族の希望により、系列病院の医師をかかりつけ医とし定期的な診療を受けている。また、同病院看護師に健康面の相談をしている。他病院へ家族同行による通院を行っている利用者もあり、相互に受診に関する情報交換を行なっている。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化した場合に、ホームでできる事は限られているため、病状変化時の対応について家族の意向に即した支援ができるよう都度話し合っている。尚、現時点における話し合いは一部利用者であるが、全利用者についても必要であるとの認識を持っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	誇りやプライバシーを重んじ、一人ひとりに合った声かけや記録を行うと共に、他の利用者・家族には話さない・見せないよう徹底を図っている。尚、個人情報の第三者提供に関する同意書に署名捺印している。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	ホームには起床・食事・就寝など一日の基本となる流れはあるが、利用者のペースや過去の習慣に合わせ望む過ごし方を大切に個別化の支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットではメニュー係を中心に利用者一人ひとりと相談し、好きなものをメニューに取り入れている。食材の買出し・下ごしらえを始めとする食事の一連作業を体調や気分を配慮し、できる範囲で一緒に行い共に食卓を囲み和やかに食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の回数や曜日は決めておらず、利用者の体調や服薬作用を配慮し、職員の同室介助を基本に入浴を楽しんでいる。入浴を拒む利用者には声掛けやタイミングを見計らい、その気になるように工夫し入浴支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個々の希望や有する力を踏まえ、役割や楽しみ事を作り出しそれを活かせるよう心掛けている。野菜植え・花の水やり・雑布掛けや食事の一連作業など、職員の見守りの中で行い感謝の言葉を伝えている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩・買い物・外食など天候や利用者の気分に応じて外出支援を行っている。外出嫌いの利用者には、言葉掛けなどを工夫し季節の体感に努めている。また、花見や市内観光などにバスを利用し家族同行で年4回実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関は施錠せず自由な暮らしを支援している。外出しそうな様子や気配を察知した時は、さりげなく声掛けをしたり行動を共にし一緒に外で過ごすなど、安全に配慮し自由な暮らしを支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を得て、避難経路の確認・消火器の使い方を始め避難訓練を行っている。年2回、実践的な訓練を積み上げると共に非常食も確保している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在、食事制限者はいなく利用者の好みを取り入れた献立を基に調理している。栄養摂取量・水分摂取量は個別記録している。食事量の少ない利用者には、暮らしの全体を通して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口よりダイニング兼リビングを中心に浴室・トイレ・洗面室などの共有空間が使いやすく隣接している。音・光・臭い・人の動きや置物・装飾品などで生活感や季節感をとり入れ、衛生管理が行き届きリラックスして過ごせる共有空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者がかつて使い慣れた馴染みの家具や生活用品を持ち込み、写真・色紙・作品などを飾り、好みの生活環境を作り居心地よい居室になっている。		

 は、重点項目。